

# 天星 Magazine

No.06 四季のおたより

## 【地域の安全祈願と防災を啓発する「出初め式」】



**今**回は1月初旬に行う「出初め式」について取り上げます。新春の恒例行事の一つである「出初め式」ですが、皆さんはご存知でしょうか。**出初め式は消防関係の催し**であり、消防士たちによる梯子（はしご）乗りや消防演習、避難救助演習、一斉放水などを行います。市民に防火の重要性を体感してもらうとともに、防災思想を広めることを目的とした行事です。

出初め式の起源は、江戸時代の万治2年(1659年)1月まで遡ります。その2年前の「明暦の大火」で壊滅的な被害を受けた江戸の町は、苦しい復興作業に追われ、町民の士気も低下

していました。このような状況の中、幕府の老中・稲葉正則は新年を機に、前年に創設された定火消（じょうびけし：現在の消防隊）を率いて、上野東照宮前で「出初め」を行って氣勢をあげたそうです。この勇壮な姿に町民たちは大いに勇気づけられ、**復興への意欲を取り戻した**といえます。これが現在の「出初め式」の原点となりました。

浜松市でも毎年1月初旬に、浜松消防局及び消防団により出初め式が行われています。新年の催し物として足を運んでみてはいかがでしょうか。

No.07 天星★二都物語

## Episode.5 【二都温泉巡り・後編 心身を癒す湯の里「石和温泉」】

**良**質な湯が自慢の温泉郷が、あちこちにある山梨県。雄大な富士山や南アルプスの山々、自然豊かな渓谷などの景観に恵まれた“湯の国”として知られています。前号から続く「二都温泉巡り・後編」は、天星製油山梨営業所がある笛吹市の石和温泉をご紹介します。

★  
周辺にフルーツ狩りができる農園やワイナリーなどの観光地が多数点在する、風光明媚な石和温泉。「いさわ」と読む珍しい地名の由来は諸説ありますが「石→胆沢→井澤→石和」という説が古文書に残っているそうです。近隣では縄文時代前期の土器が出土しており、古代の暮らしの跡が確認されています。平安時代から続く鵜飼も有名で、vol.15『天星☆二都物語』でもご紹介しました。このように長い歴史のある街ですが、**実は温泉街としての歴史はそれほど長くありません。**

石和温泉の始まりは昭和36年(1961年)。ぶどう園から高温の湯が湧き、付

近の川に流れ出した青空温泉として人気を集めました。当時はまさに高度経済成長期。周辺の宿泊施設でも温泉の開発が進み、観光地として発展したのです。

前号でご紹介した「あらたまの湯」は美肌の湯とも言われる炭酸水素塩泉ですが、石和温泉の泉質はアルカリ性単純温泉で、**こちらら美肌づくりに効果的です。**特定の含有成分が一定値に達していない温泉を単純温泉と言い、このうちPHが8.5以上のものをアルカリ性単純温泉に区分します。入浴すると肌がすべすべする感触があるのが特徴で、柔らかく気持ちの良い泉質。自律神経不安定症、神経痛、冷え性や不眠症などに効き目があると言われていました。単純温泉は効能がないわけではなく、含有成分が少ない分、刺激もまた少なく、お肌が敏感な子どもや高齢者も安心して入浴できる万人向けの温泉です。温泉の種類によっては入浴後疲労を感じる場合もありますが、単純温泉は湯あたりしにくいので、安心して利用できる温泉と言えるでしょう。

JR中央本線の石和温泉駅から東西約1キロメートルに渡る石和温泉街。その中心を流れる近津用水は、**両岸にソメイヨシノが咲き誇る「さくら温泉通り」と呼ばれる桜の名所です。**40軒を超える宿泊施設は、団体客向けの大型旅館から家族向けの旅館まで幅広く、日帰り入浴が可能な宿や、足湯や手湯が楽しめる施設も。浜松市街から車で約3時間なので小旅行にもぴったりです。心と体をほぐす時間を過ごしに、お出かけしてみませんか。



【参考資料】  
石和温泉旅館協同組合  
<https://www.isawaonsen.or.jp>  
石和温泉観光協会  
<https://www.isawa-kankou.org/sightseeing/hot-spring>

## No.01 特別企画 本社内にて行われている拡張工事レポート



今号は特別企画として、天星製油本社内で行われている工事の進捗についてご紹介いたします。2024年6月より着工している工事は、大きく分けて二つあります。一つは**地下タンク設置工事**、もう一つは**工場増築工事**です。工事は、6月~11月の期間で地下タンク設置工事を行った後、2025年3月に掛けて工場増築工事に取り掛かる予定です。2024年10月時点の進捗は、工場南側に100キロリットルの地下タンク設置作業が行われており、配管および貯蔵所のレイアウトの変更を進めています。敷地内の地面を掘り起こし、トラックで本

社まで運搬されてきたタンクを、クレーンで地下へ設置します。この巨大なタンクの据え付けは、大型クレーンに40トンの重りを積んだ状態で吊り上げを行い、重さのバランス調整しながら慎重に作業を行います。クレーンを操作する方、指示を出す方、クレーン操作をする作業員の代わりに死角を監視する方、様々な役割の方が息を合わせて**据え付けていく光景は、まさにダイナミックそのものでした。**

11月からは工場増築工事に取り掛ります。工場の建屋を南側へ伸ばすことで、**工事後は工場の大きさが約1.3倍になる**

**予定**です。工場増築後は、蒸発濃縮装置の更新を行います。

今回の工事では、製品の品質保証とトレーサビリティの向上、廃油処理量の増加にともなう環境への貢献、燃料使用量削減による環境負荷の軽減などの様々な効果が望めます。地域の皆様方におかれましては、日頃からご迷惑をお掛けしておりますが、今後も地域の環境をはじめ地球環境の保全に少しでも貢献できるよう日々邁進していく所存です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

< 発行 >

天星製油株式会社

検索

< HP >



〒434-0003  
静岡県浜松市浜名区新原 3833-1  
TEL : 053-586-9911  
<https://www.tenboshi.com/>

天星製油の最新のニュースをお届けします！



編集長  
カワイ



特殊なゴーグルを使った訓練の様子

今回のKYT訓練(危険予知訓練)は、飲酒の影響を体験できる特殊なゴーグルを使用した訓練を実施しました。このゴーグルを装着することで、ほろ酔い、泥酔、酩酊の3段階の酔った状態を再現。視野が乱れることで、身体を動かした際にズレが生じてバランスが崩れ、手元の動作や歩行など、普段は簡単な動きでも思うようにできなくなることを実感しました。**人間は情報の8割以上を視覚から得ている**とされますが、実際の飲酒状態では思考や判断力も合わせて低下します。訓練を通じて、飲酒時の危険性を改めて考えさせられる訓練でした。



犬塚君、日本一おめでとう！

天星製油は、静岡県西部で唯一のレスリングクラブ「浜松 SSFC」を支援しています。**その浜松SSFC所属選手である犬塚大翔君が、令和6年度のレスリング全国大会で優勝を果たし、この度3連覇を成し遂げました。**私もスポーツ経験者として、日本一になる大変さや努力の量は計り知れないものであると想像できます。この3連覇達成を心から祝福するとともに、犬塚君の今後の活躍にも期待が膨らみます。目標に向かって努力する犬塚君の姿勢に感銘を受け、私も同じように仕事やプライベートに一生懸命でありたいと思いました。

No.03 「旬」な天星スタッフご紹介！



杉山 昌樹  
営業2課

Q お仕事内容は？

昨年6月頃、これまでの廃油の回収業務から営業職になりました。お客様からのお問合せやご依頼の対応、契約書作成などの事務作業のほか、新規お取引先様への営業活動や、課内の仕事振り分けなど行っています。



鈴木 葉津海  
精製課

Q お仕事内容は？

精製課という部署で、主に分析業務を担当しています。月40~50件ほどの依頼がくる廃油サンプルを元に、回収可能な油かどうかを分析しています。分析結果によっては、原因究明まで行います。

Q 最近のトピックスは？

高校の修学旅行でスキーの魅力を感じて以来、家族や一人でも毎年スキーを楽しんでいたのですが、今年は原因不明の半月板損傷を患い、ヒザを痛めてしまいました。なんとか今年のスキーシーズンまでには、良い状態になればと願っています。

Q 最近のトピックスは？

旅行好きが高じて、趣味で「旅色」というWebサイトに記事を連載中です。2ヶ月に1回ほど「大人の社会科見学旅」をテーマに、工場や酒蔵、博物館など、大人が楽しめるスポットを紹介しています。ペンネーム【さっか】で、最近は山形の記事を書いていますのでぜひご覧ください！

Q これからの抱負をお願いします！

トピックスでもお話ししましたが、特に負担をかけた訳でもなく急にヒザを痛めたので、年齢を意識するとともに、衰退予防のため日々の生活に運動を取り入れて、現状維持できるように心がけたいと思います。

Q これからの抱負をお願いします！

全国47都道府県を制覇することが目標です。すでに「秋田」「宮崎」「大分」「熊本」を残すのみとなり、早くこの4県を訪れたいです。旅先での発見や感動を、記事を通して多くの読者と共有していけたらと願っています。

【食品ロスを減らそう】

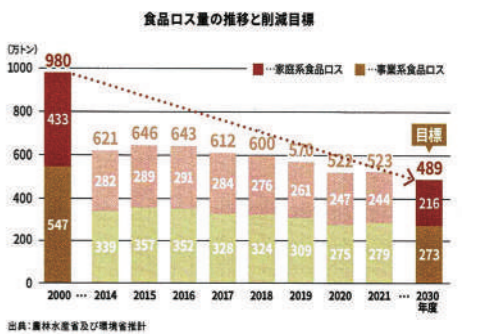
みなさん「食品ロス」という言葉は、お聞きになったことがあると思います。家庭での食べ残しや小売店での売れ残りなど、本来は食べられるのに捨てられてしまう食品のことを指しています。地球上には貧困や飢餓で苦しんでいる人たちがたくさんいますし、捨てられたごみの処理には多大な経費が掛かります。また、その処理にともなう温室効果ガスの発生まで考えると、単に「もったいない」に留まらず、**環境にも大きな影響を与えている**ということを考慮する必要があります。

この「食品ロス」における現状を調べてみました。農林水産省及び環境省の推計によれば、令和3年度(2021年度)に国内で発生した食品ロスの総量は約523万トンとなっています。そのうち、料理の食べ残しや使わずに捨てられてしまう食材などの「家庭系食品ロス」が244万トン(46.7%)、

飲食店で発生する食べ残しや小売店での売れ残りや返品など「事業系食品ロス」が279万トン(53.3%)を占めています。523万トンという数字は、あまりピンとこないかも知れませんが、国民一人当たりで換算すると、毎日114g(おにぎり約1個分)の食品を捨てている計算になります。日本の食料自給率は38%と低く、輸入に頼っている部分が多い現状を考え合わせれば、**その削減が国民的な課題であることが見えてきます。**

次に、食品ロス発生量の経年変化と政府が立てた削減目標の達成状況を見てみましょう。グラフをご覧くださいと、西暦2000年(平成12年)に食品ロス発生量は、980万トンあります。政府は、30年後の2030年にその量を半減させるとする目標を立て、様々な取り組みを展開してきました。令和3年度には、523万トンまで減少しており、2030年目標の達成は可能である

と想定できます。しかし、減少ペースは鈍くなっていますし、事業系食品ロスの目標達成率97.8%に対して、家庭系食品ロスは、88.5%に留まっている状況を見れば、楽観視できるものではありません。今後も、国民一人ひとりが食品ロス削減に向け、高い意識を持って取り組んでいくことが大切です。(鎌田環境コンサルタント 鎌田俊己さん)



No.05 環境保全 Report

【環境測定、および訓練のご報告】

Key Word

環境測定の結果、および社員への教育訓練の実績についてご紹介します。

- ☑ 防災関連問題集の取り組み(9月)  
内容：災害時の警戒情報や避難情報について問題を作成し、各自で取り組みを実施
- ☑ 漏油対策車両の設備及び装備の確認(9月)  
目的：車両に備わる機能や漏油対策装備を確認。緊急時には誰でも操作・稼働できる体制を整える。
- ☑ 安全運転講習(10月)  
鈴木 大介様、小池 一乗様 <株式会社トップ>  
テーマ：「巻き込まれ事故を防ぐ！」講習会



漏油対策車の機能・装備と稼働方法を確認しました。

項目	排ガス	放流水	観測孔(水質)
		生活環境項目	
実施日	(2024.6)	(2024.8~2024.10)	(2024.7)
測定結果	○	○	○